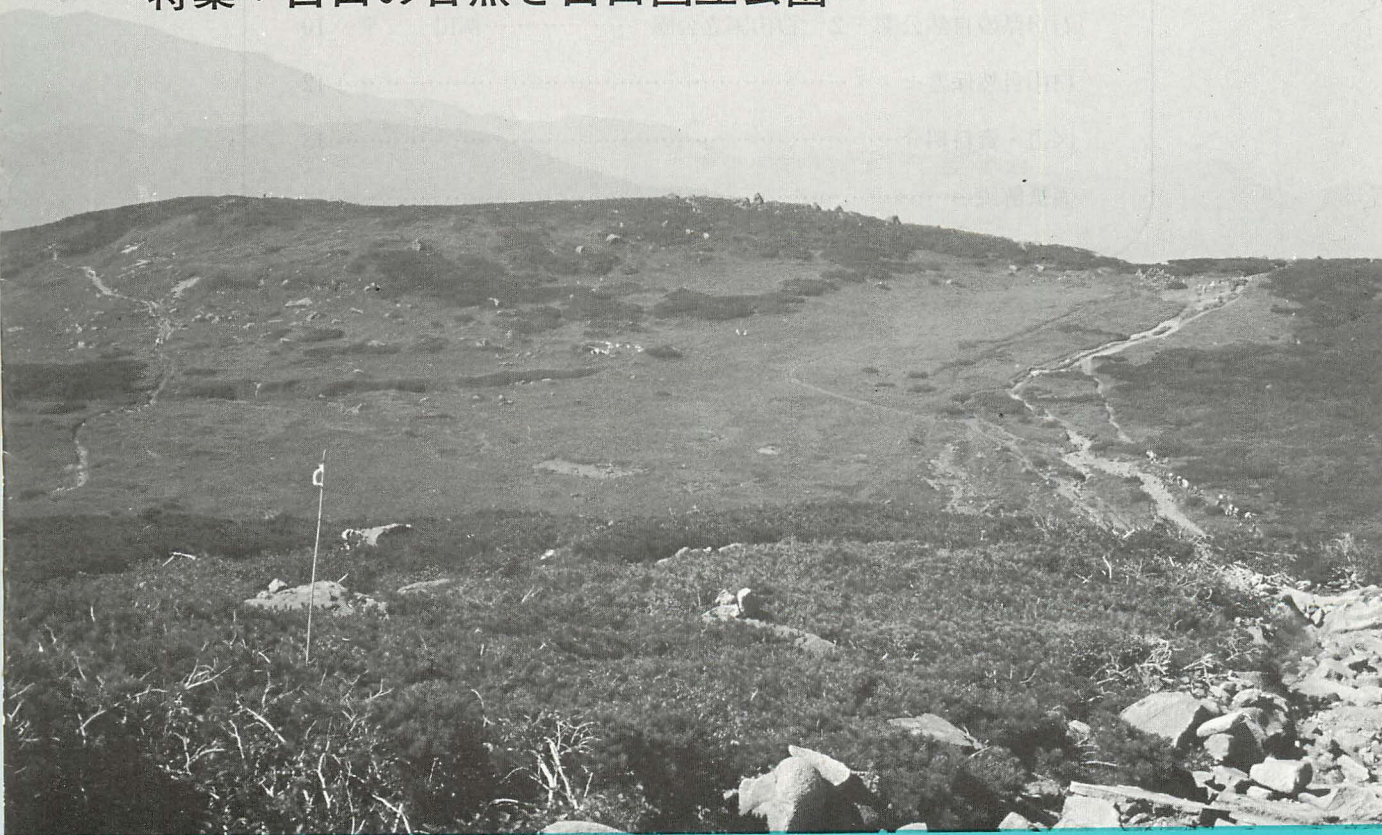


はくさん

特集：白山の自然と白山国立公園



第1巻 第5・6号

も く じ

特集：白山の自然と白山国立公園

豪雪の山 ー白山の気象ー	1
やまのおいたち ー白山の地質ー	2
白山と植物	四手井英 4
白山国立公園のみどころ	西塔 紀夫 6
白山の動物 ー保護をめぐる話題ー	花井 正光 8
石川県の自然公園・2 白山国立公園	柳田 亨 10
白山自然保護センター	12
図書・資料紹介	13
表紙解説	14

普及誌「はくさん」の編集方針について

「はくさん」は、白山地域の自然および自然保護の正しい理解と普及のため、ひろく一般のかたがたに読んでいただくことを目的とした普及雑誌です。

いろいろな内容のものが掲載できるようにしたいと思いますので、各方面のかたに原稿をお願いするとともに、自然や自然保護に関心をおもちの方の投稿も歓迎いたします。

なお、普及雑誌ですので、行政的な問題や専門的な学術論文などは、おことわり申し上げることがあるかと思えます。

(研究普及課)

豪雪の山

— 白山の気象 —

北陸地方はスキー場も困るほどの暖冬が2年つづいたあと、今年は大雪にみまわれています。白山山頂では平年初冠雪10月8日のところ昭和48年はちょうど10月8日に、山麓では11月16日初雪を見て、以来降ったり止んだり、ついに手取川上流の村々は3m以上の雪にうまってしまいました。

白山の名は雪が多く白い山という意味でしょう。これまでの山麓の積雪記録には1918年(大正7年)に白峰で6.82mという記録もあります。おそらく白峰や中宮・尾添など村の中心があるところで、これだけの豪雪地は世界にもあまり多くはないでしょう。

白山の連峰は日本海の海岸とほぼ平行に、南北に連らなり、日本海側と内陸とを分けて

います。冬期、シベリア大陸に寒冷高気圧が発達すると、日本海でたっぷり水蒸気を吸収した北西の季節風が、ほぼ直角に白山連山に当って上昇気流となる時、温度が下って含んでいた水分を一気に雪にしてはき出すのです。この上昇気流は雷の発生原因にもなり、他の地方ではあまり見られない冬の雷多発という現象をもひき起こします。白山をはさんだ2つの村を比較してみると、白峰は荘川より300mほど標高が低いにもかかわらず平年の積雪量でも2倍ほどになります。これは季節風が白山を越える時に雪を降らし、風下へ乾燥した風を送っていることの証拠です。

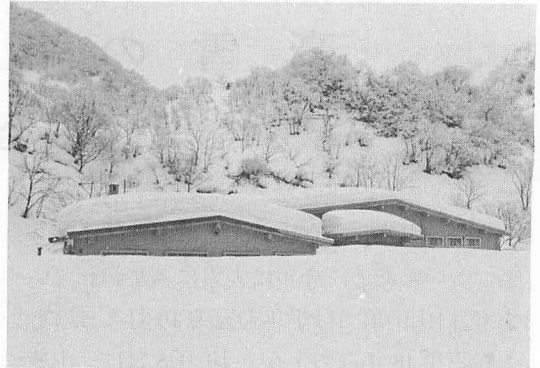
山頂の雪はどうでしょう。残念ながら冬期間人がいない白山の山頂や高山部での雪の観

白山周辺の積雪(久保, 1970)

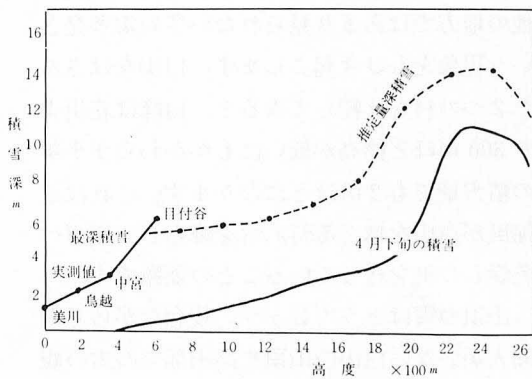
	最深積雪		平年最深積雪 cm	雪の初終日		霜の初終日		積雪の初終日	
	cm	年月日		初日	終日	初日	終日	初日	終日
金 沢	181	1963. 1. 27	66	月 11 日 30	月 4 日 2	月 11 日 20	月 4 日 12	月 9 日 12	月 3 日 23
白 峰	682	1918. 1. 20	243	11 19	4 12	10 23	5 2	11 21	4 4
中 宮	480	1945. 2. 26	247	11 24	4 4	10 17	5 5	11 25	4 3
女 原	544	1945. 2. 10	220	11 23	4 5	10 23	4 30	11 28	4 4
鳥 越	385	1945. 2. 26	149	11 30	3 31	11 8	4 27	12 6	3 26
新 保	576	1934. 3. 17	312	11 17	4 8	11 6	4 23	11 23	4 12
勝 山	325	1963. 1. 31	121	11 29	4 1	11 3	4 26	12 5	3 18
大 野	306	1918. 1. 9	123	11 29	4 2	11 2	4 23	12 4	3 22
朝 日	379	1918. 1. 9	176	11 27	4 3	11 2	4 25	12 3	3 29
白 川	356	1935. 1. 23	172	11 17	4 11	10 26	5 5		
荘 川	227	1910. 2. 17	124	11 11	4 18	10 13	5 21		
白 鳥	225	1936. 2. 2	107	11 25	4 1	10 27	4 28		

測は、登山者などがとった断片的なものしかありません。登山が容易になる4月下旬の各高度の積雪などから白山の高山部の積雪を推定してみると10数メートルに達していると思われる。

人々は冬になると雪に閉ざされる生活を強いられ、時にはなだれの恐怖におびえなければいけません。衣食住に雪国独特のものが発達し、白山麓の風土がそこから生まれました。生物も同じことで、長い冬を耐えるだけの適応能力を持つものだけが、ここに生活し分布



雪にうまった自然保護センター



白山の推定最深積雪

することを許されているのです。そして白山独特の植生、動物などが見られるのです。

一面脅威である雪も、一度積もると夏までかかって溶けて流れるので、白い石炭と呼ばれるように、多くの川をうるおし、電力や産業にはなくてはならない存在となるのです。

白山の標高500m以上の山地に約6億トンの積雪があると推定されています。この深くで大量の雪が、白山と山麓の自然と人々のくらしを決めている、といっても過言ではないでしょう。 <研究普及課>

やまのおいたち

——白山の地質——

霊峰白山のおいたちの解明は、すでに明治10年にはじまっていました。その端緒となったのが、現在、天然記念物に指定され、「桑島の化石壁」として有名な化石産地での、中生代化石の採集でした。ドイツの地理学者ラインが発見したこの時代の植物化石は、わが国ではじめてのものでした。そして、この発見を手がかりとして、「手取統」といわれている

堆積層の存在が明らかにされてきました。

この手取統とよばれる堆積層の形成は、つぎのように考えられています。

いまから13,000万年ほど昔(ジュラ紀後期から白亜紀にかけて)、白山地域一帯は、汽水(半淡水)ないし淡水の湖であったといわれます。この湖が、「手取湖」とよばれているものです。これは非常に長い間かかって、少し

ずつめられていきました。そうして、堆積層が湖をうめつくして、いまの“手取統”とよばれる地層が形成されたのです。

現在、この地層は、白山麓を中心にして南は福井県の九頭龍川の上流地域に、北は富山県八尾市の南東部にまで、広い地域に断続的に分布しています。こうしたことから、手取湖は相当に広い面積をもっていたと考えられ、ある説によれば、それはいまの琵琶湖の10倍ぐらいいもあったとされています。

白山は、こうした“手取統”が隆起して陸化したうえに、噴出した火山だといえるでしょう。もちろん、白山火山をささえる基盤となっているものには、このほかにも、古い方から順に飛騨変成岩類や古生層・濃飛流紋岩・新第三系などの地層が知られています。

(手取統は古生層に次いで新しい地層だといえますから、それ以前のものはいかに古いかおわかりでしょう)それに、火山の噴出もたった1回で、現在みる白山ができあがったわけではありません。歴史時代にはいってからも、少なくとも数回の噴火をくりかえしてきたことでしょう。そこで、つぎに白山の噴火の歴史をみてみます。

いまから2万年ないし100万年前の洪積世に、かなりの規模をもつ火山活動があったと推定されています。このときに噴出した安山岩類が、白山の西南側にいまも分布しています。これを古白山火山とよび、その高度はお

よそ3000mと推定され、いまの白山よりも少しばかり高かったようです。

そのあとどれくらいかかったかは解りませんが、古白山は次第に浸蝕されていきました。そしてこの侵蝕作用は基盤をなす濃飛流紋岩類にまで達したといわれます。

とにかく、古白山が形成されたあと、その南側山腹に新白山火山が噴出しました。この時期は、新白山火山形成期のうちの御前期とされています。これは成層火山体とよばれる円錐形の山容をなしているものです。これは、古白山よりも山体の容積は小さいものといわれます。

さらに、こうした御前期につづく火山活動が何回かあり、これを翠ヶ池期とよんでいます。この時期以降は歴史時代にはいりません。この期はその名称が示すとおり翠ヶ池などの小火口群が形成されたときで、ほぼいまの白山が形成されたわけです。

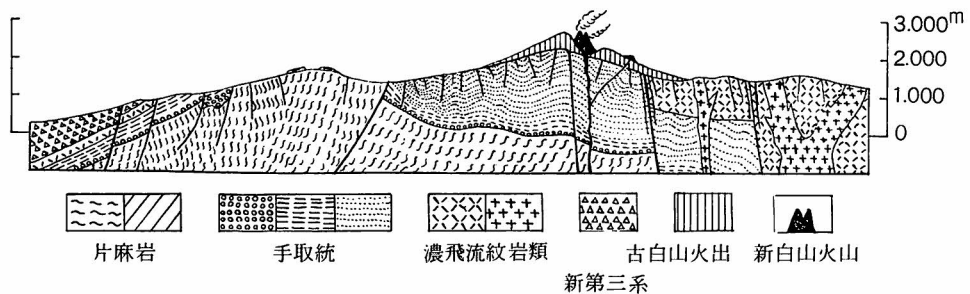
文献にあらわれた白山の噴火は、奈良時代前期頃をはじめとして、江戸時代まで9回にわたっていたことが知られています。

こうした長い年代を通じて、いま私達がおおき見、登山する白山が形成されてきたといえましょう。
 〈研究普及課〉

参考にした文献

- 『白山』 北国新聞社発行 昭和37年
- 『白山の自然』 石川県・白山学術調査団、昭和45年

白山火山の断面(粕野ら1970)



白山と植物

白山は、金沢市の南、約60kmのところにある、日本の屋根といわれる北アルプスとは庄川、神通川、飛騨川、長良川によって隔てられた海拔2,702 Mの独立峰である。

本州では、これより西には白山より高い山がないため、ここを西限、あるいは西南限とする植物や、「ハクサン」にちなんだ、和名、学名を持つ植物が多く、学術的に高く評価されている。

又、本州のブナ林の代表とも言える広大な原生林が、白山の海拔1700 M近くまで広がっており、その下層には、歩行さえ困難な程、多くの植物が繁茂している。それは又、多く

の鳥や獣等に快適な生活の場を与え、カモンカ・サル・ツキノワグマ等の日本有数の生息地となっており、本州最後の自然ともいわれている。

白山は、かつては湖の底だったものが、火山活動によって隆起してできたものといわれ、火成岩と水成岩の両方が入り乱れており、更に温泉熱による風化（温泉風化という）によって、地獄谷や、サラサラ崩れ、という地名でも解るように、非常に崩れやすい山である。それを、大自然の大きな力は、数千万年以上の長い時間をかけ、地形や地質、その他の環境条件に合った種々の植物で被うことによ

白山にちなんだ名を持つ植物

科名	和名
ミズゴケ科	ハクサンミズゴケ
カバノキ科	ハクサンハンノキ、ヤハズハンノキ
タデ科	ハクサントデ、オントデ イワタデ
キンボウゲ科	ハクサンイチゲ
〃	ハクサントリカブト
アブラナ科	ハクサンハタザオ、マルバハタザオ
フウソウ科	ハクサンフウロ、シロウマフウロ、アカヌマフウロ
トウダイグサ科	ハクサンタイゲキ、ミヤマノウルシ
モチノキ科	ハクサンモチ、シイモチ
カエデ科	ハクサンモミジ、ミネカエデ、バンダイカエデ
オトギリソウ科	ハクサンオトギリ
セリ科	ハクサンポウフウ、ヒロハニンジン
〃	ハクサンサイコ、トウゴクサイコ
ツツジ科	ハクサンガヤ、アオノツガザクラ

科名	和名
ツツジ科	ハクサンシャクナゲ
サクラソウ科	ハクサンコザクラ、ナンキンコザクラ
シソ科	ハクサンカメバソウ、ハクサンカメバヒキオコン
オオバコ科	ハクサンオオバコ
スイカズラ科	ハクサンヒョウタンボク
〃	コウグイスカグラ、トリガタヒョウタンボク
〃	ハクサンボク
オミナエシ科	ハクサンオミナエシ、コキンレイカ
キキョウ科	ハクサンシャジン
キク科	ハクサンアザミ
〃	ハクサンカニコウモリ
〃	ハクサンヨモギ、アサギリソウ
〃	ハクサンイワギク、イワギク、ニッコウギク
イネ科	ハクサンイチゴツナギ
カヤツリグサ科	ハクサンスゲ
ラン科	ハクサンチドリ、イワキチドリ、シラネチドリ
ミズキ科	ゴゼンタチバナ（白山の御前峰の名にちなむ）

て、白山の崩壊を最少限にいとめてきた。

例えば、溪谷沿いのガレ地や湿地は、オニグルミ・サワグルミ・ドロノキ等、この上部の比較的安定した斜面は、ブナ・チンマザサを中心とした森林、更にブナも生育できない岩壁は、ヒメコマツ・コマツガ等、又高山部では、風の強いところは、ガンコウラン・イワヒゲ等、風が弱く、雪の少ないところには、ハイマツ、長く雪の残るところには、アオノツガザクラやハクサンコザクラ等といった様に、その場所や、周囲の環境に適した植物が、互いに、又、他の種々の生物と助け合いながら、この白山を守ってきたのである。

この大いなる大地の上に、多くの生物が美事なバランスを持って共存しているさまは、長い時間をかけて緻密に編まれた網目のようでもある。ところが、他の山々が開発されつ

くしてしまった現在、本来自然の動物である人間は、真の自然を求めて白山へとおしよせ始めたのである。自然と共存し得た時代の人類と異って、今の人類の集団の力は大きく、完全なバランスの下にあった自然の網目に、ほころびを入れるのに充分である。

互いに共存している植物の世界にほころびが入った時、被いのなくなった白山は崩れ始め、それが、又ほころびを拡げる。それは、単に白山の崩壊にとどまらず、洪水等をひきおこすことによって下流の村や都市に住む人々の生活をも脅かす。

何百世紀もの間、一見無力な植物がやってきた事、それを今人間は、巨万の費用を投じてしなければならぬのである。

〈四手井英一〉

白山を西限とするか、この山域以西には分布が極めて稀になる植物（正宗による）

科 名	和 名
マ ツ 科	アオモリトドマツ
マ ツ 科	ハイマツ
タ デ 科	オンタデ
ナ デ シ コ 科	タカネナデシコ
〃	タカネツメクサ
キンポウゲ科	ハクサントリカブト
〃	ハクサンイチゲ
〃	シナノキンバイ
〃	ミヤマキンポウゲ
バ ラ 科	チングルマ
〃	ミヤマキンバイ
〃	ウラジロナナカマド
〃	タカネナナカマド
フウソウ科	ハクサンフウロ
オトギリソウ科	シナノオトギリ
ミズキ科	ゴゼンタチバナ
イワウメ科	イワウメ
ガンコウラン科	ガンコウラン
ツ ツ ジ 科	イワヒゲ
サクラソウ科	ハクサンコザクラ

科 名	和 名
ゴマノハグサ科	ヨツバシオガマ
ハマウツボ科	オニク
オ オ バ コ 科	ハクサンオオバコ
キ キ ヨ ウ 科	イワギキョウ
キ ク 科	ハクサンアザミ
カヤツリグサ科	ハクサンスゲ
ユ リ 科	クロユリ
〃	ニツコウキスゲ
〃	キヌガサソウ
ラ ン 科	ハクサンチドリ

17 白山温泉
旅館が1軒あります。

18 県道白山公園線
白峰～別当出合の道で、改良工事は途中までです。急なカーブもありますからスピードは出さずに通って下さい。

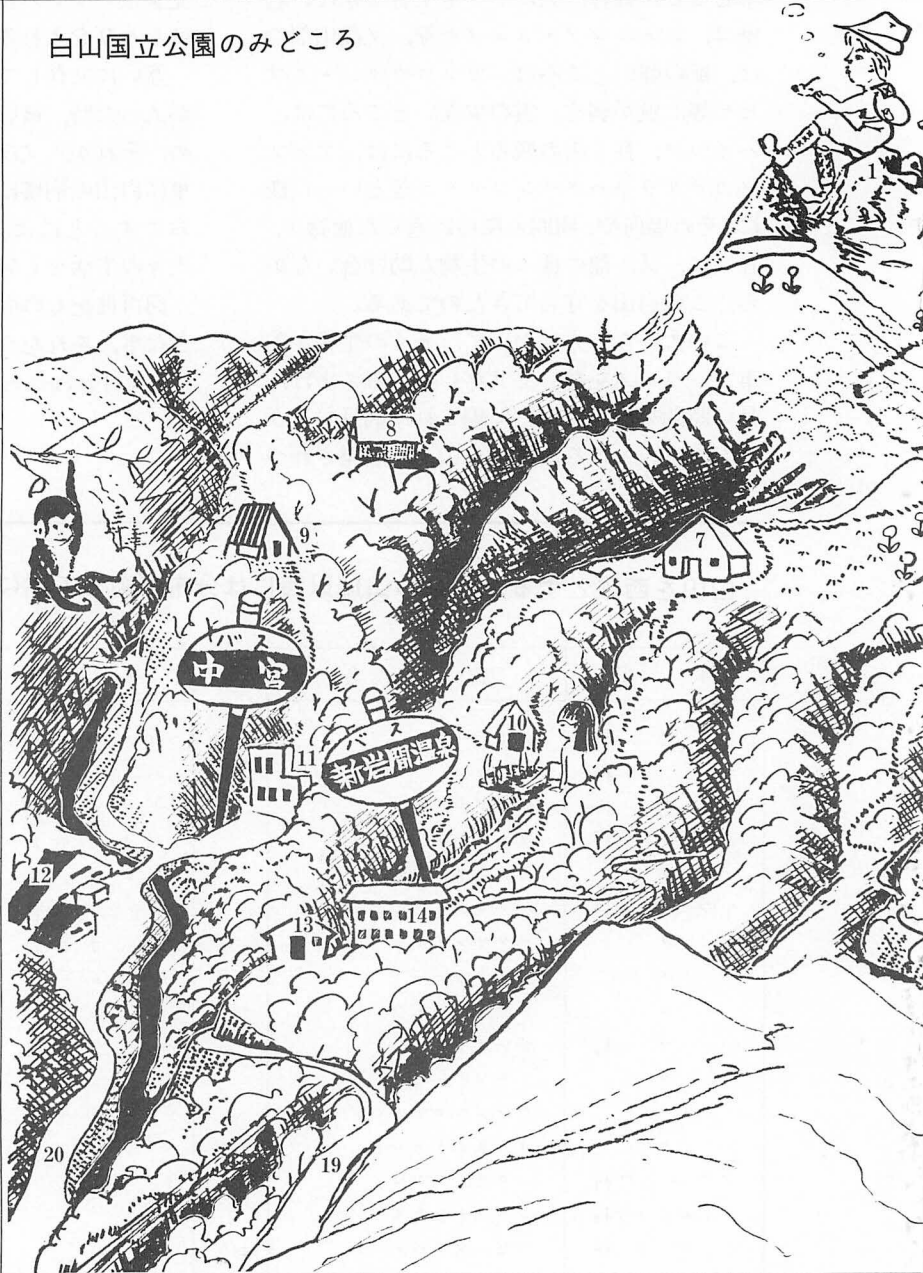
19 県道岩間瀬戸野線
新岩間～瀬戸野の道で改良工事中です。道幅せまく気をつけて通って下さい。

20 白山スーパー
中宮温泉まで一里野で岩間溝です。

16 市瀬登山センター
登山案内をしています。春山、秋山に登る人、あるいは初めての人はここで説明を聞いて下さい。バスも止ります。

白山国立公園のみどころ

15 別当出合休憩舎
300台の駐車場があって、ここから歩きます。売店、休憩舎があります。夏は登山バスが金沢駅から直通で来ています。バスの終点です。



14 新岩間温泉
旅館が1軒あります。バスの終点です。

13 新岩間休憩舎
小さな駐車場と便所、休憩室があります。

12 石川県白山自然保護センター
白山の資料を沢山展示しています。この建物から奥へ入っていくと野猿の生態を観察できます。5月から10月まで開館しています。

11 中宮温泉
旅館が5軒あります。中宮道の登山口です。バスの終点になっています。

10 岩間ヒュッテ
水と温泉がある自然記念物の噴泉谷にあって下を新岩間温泉に出

林道
車で入れます。
戸野線と連がり

1 白山山頂

標高2702m、噴火の跡を示す火口湖が美しい。ここからは北アルプス南アルプスの山稜が雲海のかなたに見えます。石垣で囲われた白山奥宮があります。白山室堂から30分で登れます。

2 白山室堂

ハイマツとお花畑が広がり、夏おそくまで雪溪が残ります。春4月27日から11月4日まで営業する山小屋があって、6月、9月ごろはゆっくり泊れます。

3 南竜ケ馬場野営場

広大な高原で、ニッコウキスゲなどが咲きみだれています。野営場ではテントも貸出します。テントの生活ができるのは山頂部ではここだけです。ロッジもあります。



4 チブリ尾根ヒュッテ

白山をじっくりながめたい人にぴったり。ここは水がないので泊る人は水をついで登って下さい。市瀬からここまではブナ林の中を延々と登りますが、すばらしい紅葉がみられます。

5 甚ノ助ヒュッテ

水があります。別当出合から登ってくる人は、だいたいの人がここで休憩します。甚ノ助谷の崩壊地とその上のなだらかな南竜ケ馬場、向うにはチブリ尾根と御舎利、別山が見えます。このあたりはアオモリトドマツが生えています。

6 殿ヶ池ヒュッテ

水はありません。別当から観光新道を登ってくると、初心者ほとんどここでバテます。だから下山道として使ってください。このヒュッテから弥陀ヶ原までの急な道ぞいが最もいい所なのです。秋の高山植物マツムシソウがいっぱいさいしています。

9 しなのき平ヒュッテ

水場は約200mほど中宮道を登った所で東側のやぶの中です。ヒュッテの入口のところにしなのきの大木が生えています。昭和48年から使われ始めた小屋で木の香もかぐわしいシャレた小屋です。

8 ゴマ平ヒュッテ

泉があります。朝、室堂を発つとここで昼食になります。ここから妙法山を通して白川村馬狩に行けますが、道は解りにくくやぶごぎを覚悟して下さい。

7 小桜平ヒュッテ

水は枯れることがあります。ここは岩間道と楽々新道の分岐です。どちらの道も下山道にした方がよいでしょう。四塚山を迂回するところで春は雪溪をトラバースします。5月中は初心者は通らないことです。

ります。特別天塔がこの下の溪ぐるっと回ってられます。

白山の動物

—保護をめぐる話題—

白山を生活の場としている動物の種類は多い。動物としては代表格の哺乳類が豊富に生息していることでは、日本でも有数のところとして広く知られている。とりわけ、クマ・



生後2ヶ月ほどの子グマ，まだ足はこびが，
こころもとない

カモシカ・ニホンザルの生息密度が非常に高いことが、白山の名をたかめているのである。自然の改変があちこちで著しく進展している今日でも、白山にはまだ広く自然が遺されている。広大なブナ林は、他の地にその類をみないという。動物相が豊かでいられるのは、この恵れた事情にささえられてのことといえよう。

白山に生息する動物について、その全てをここにあげて紹介することは、余りに多すぎて無理であるし、その必要もなさそうである。自然保護を考えるうえでもよい材料と思われる動物を中心にとりあげていくつか紹介してみる。

〈哺乳類〉

白山に春がおとずれるのはおそく、ヨブシヤンヤクナゲが花を開く4月のなかばをむかえてさえ、まだ雪はとけさらない。こんなと

きに、谷添いの斜面のところどころに、まっさきに緑が復活する。“ナバタ”とよばれる高茎草原である。ながい、きびしい冬をすごした、クマ、カモシカ、サルにとって、またとないプレゼントだ。みずみずしい、でたての草ぐさがメニューの“高級レストラン”である。この時節には、この付近を中心に行動をするので、かれらの姿を観る機会にめぐまれる。

クマは1頭の場合が多いが、時おり子供(2頭であることが多い)づれの母グマも観ることができる。しかし、クマにとってこの時季は受難のときでもある。白山で捕られるクマのほとんどが、このときのものである。これに比べると、禁猟獣であるカモシカとサルは安全にこの時季をすごせるわけである。サルはこの頃に出産をする。

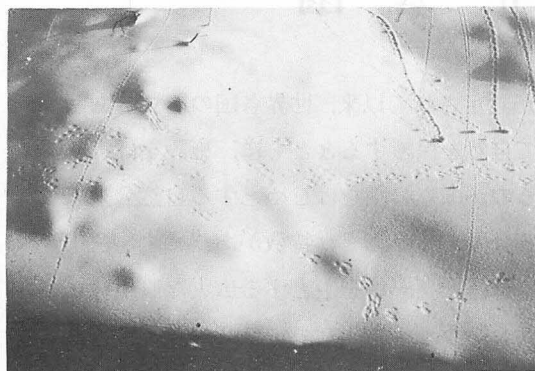
ブナやミズナラの林がすっかり新緑になる6月には、これらの動物も行動中心地をそち



積雪期のニホンザル(蛇谷)

らへ移す。四季をとおしての移動は、こうした動物たちの保護が、局所的な地域に限っておこなわれるのでは十分でないことを教えてくれる。

白山には、キツネ・テンなどの捕食者と、ノウサギはもちろんリスやネズミ類も多く分布している。オコジョ、モモンガ、ヤマネなどもいる。(そうあちこちにはいない)



雪原についたノウサギの足跡

白山一帯は豪雪地帯である。山麓の村々では、ヒトは静かにこの季をやりすごすかみえる。しかし、動物たちはそうではない。クマのような例外を除いて、かれらは乏しい餌を求めて活発に動かねばならない。雪が夜半で降りやんだ朝には、雪原に種類のちがう足跡をみることができる。ノウサギの足跡がもっともめだつが、そのなかには、ウサギの跡をつけ廻したことがはっきりと読んでとれるテンやキツネの足跡をみることもある。雪は、ふだん観ることのできない動物たちのいとなみを、こうして教えてくれることもある。

<鳥 類>

日本最大の鳥はワシタカの仲間のイヌワシであるが、その数はごくわずかであるらしい。そのイヌワシが白山にはいる。国の天然記念物であり、石川県のシンボルとしての県鳥に指定されている。翼を広げると2メートルほどもあるこの鳥の飛翔は雄壮である。しかし、その姿をみることばまれで、40平方キロにも及ぶといわれるテリトリーをもつとしても、生息数はほんのわずかだと思われる。そう遠くない昔に、ライチョウは白山から姿を消した。大自然の象徴としてのイヌワシが留まっ

ていることを、白山の自然の指標と読みかえたい。

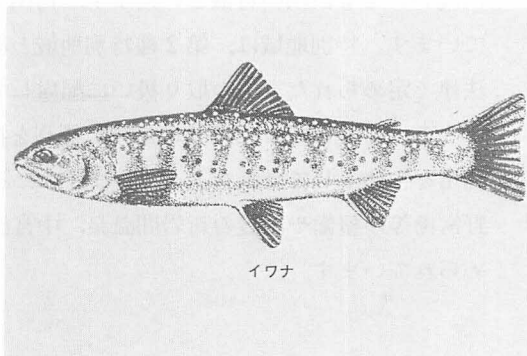
急速に姿を消しつつあると思われる鳥にカワセミの仲間であるヤマセミとアカショウビンがある。溪流の魚を主な餌にしている、体つきとアンバランスに発達させたくちばしが特徴の鳥である。砂防のためのえん堤や発電用水の取入れえん堤の新設は、河川生物の生活環境を著しく変化させた。おそらく、このことが原因となっているのであろう。きれいな姿とさえずりをもった鳥類は、まだたしかに多く生息している。そうしたかげで絶滅にひんしている鳥がいることの方を知ることが必要なこともある。

<魚 類>

溪流にすむ魚で著名なのはイワナである。用心深い習性と美味なことが釣りびとの関心をひくようである。魚では最も上流にすんでいて、水生昆虫を主な餌としている。ところによっては、カジカ(ゴリ)とともにすんでいるが、どちらも数が少なくなりつつあるようで、やはり生活環境の変化を暗示している。

手取川にえん堤が作られる以前には、大きなマス(サクラマス)が牛首・尾添両方の谷に海から遡上してきたという。大人の手のひらよりはるかに大きいもりでこれを捕ったと聞いたことがある。溪流の魚類相が貧しくなりだしたのは、つい最近の現象であるといえる。

<花井 正光>



溪流の魚イワナ

石川県の自然公園 2

白山国立公園

1872年、アメリカでイエローストン国立公園が設定されて以来、世界各国の国立公園制度が発達してきました。自然の風景地を区画して自然を保護するとともに、施設を計画的に整備して国民の保健休養に役立たせようとするのが国立公園をはじめとする自然公園です。昭和48年5月現在、わが国の国立公園は26公園ありそれぞれ特徴があります。白山国立公園は特色ある地学的景観、豊富な高山植物群落とブナ林を主とする広大な原生林に加えて、近年明らかにされてきたニホンザル、ニホンカモシカ、ツキノワグマなどの大型哺乳動物群の宝庫として全国に知られています。

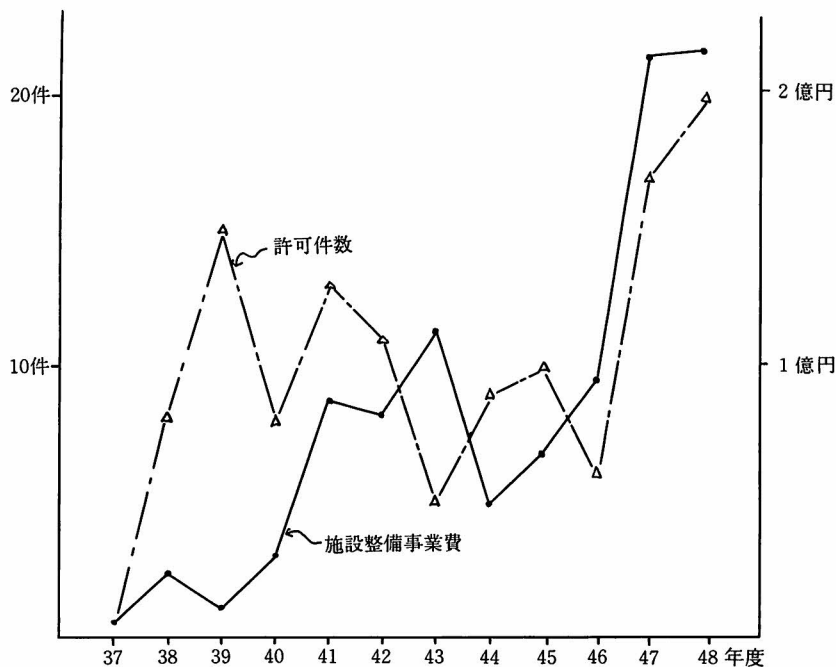
白山国立公園の面積 (単位はha)

県名	特別保護地区	特別地域			普通地域	計
		第1種	第2種	第3種		
富山	148	—	1,088	1,573	—	2,809
石川	9,808	—	235	15,570	—	25,613
岐阜	7,904	—	2,759	3,122	—	13,785
福井	220	—	1,722	3,253	—	5,195
合計	18,080	0	5,804	23,518	0	47,402

これらきわめて原始性の高い区域を保護するため、公園計画によって決められた特別保護地区は、白山の主峰、御前峰を中心として、北は大笠山より南へ走る稜線部、南は三ノ峰より芦倉山を経て大日嶽へ至る稜線部で、面積は全公園面積の約38.1%にあたる18,080haが指定されています。この特別保護地区の占める割合は、他の国立公園と比較して非常に高いことも白山の特徴といえます。白山では特別保護地区以外の区域が特別地域となっています。特別地域は、第2種特別地域と第3種特別地域に区分され、森林施業の制限や法律で定められた事項の取り扱いに配慮しており、国立公園の風致保護に努めています。

一方、利用面では、2,500m前後の標高を持つ山岳公園である特質を生かし、登山による利用を主体として計画を進めています。たとえば、登山歩道、縦走路、避難小屋、山小屋、野営場等の整備や山麓の新岩間温泉、中宮温泉、市の瀬など集団的な施設整備が着々と進められています。

〈柳田 亨〉



石川県側における許可件数と施設整備の推移

許可件数とは、法律で定められた行為をあらかじめ申請し、許可されたものをいう

白山国立公園のおもなできごと（石川県側）

- | | |
|----------|--|
| 昭和6年4月 | 国立公園法が公布された。 |
| 昭和30年7月 | 白山が国定公園に指定された（47,402ha）。 |
| 昭和30年10月 | 岩間の噴泉塔群が天然記念物に指定された。 |
| 昭和32年6月 | 国立公園法が全面改正され、自然公園法が公布された。 |
| 〃 | 岩間の噴泉塔群が特別天然記念物に指定された。 |
| 昭和32年7月 | 白峰村の化石壁が天然記念物に指定された。 |
| 昭和37年11月 | 白山国定公園が国立公園に昇格。
県は景観地保護事業に着手。 |
| 昭和39年2月 | 尾口村岩間地内の特別地域の一部が特別保護地区に指定された。 |
| 昭和40年 | 白山生態学調査隊の調査がはじまる。
室堂周辺の園地が完成、南龍ヶ馬場野営場整備に着手。 |
| 昭和41年 | 室堂ビジターセンター建設に着手。 |
| 昭和42年 | 白山スーパー林道の建設が決定。 |
| 昭和46年3月 | 白山自然保護センターの建設に着手。 |
| 昭和48年7月 | 白山自然保護センター開館。 |

白山自然保護センター

昭和48年4月に開所して以来、やがて1年がすぎようとしています。この白山自然保護センターは何をしているところなのか、まだ十分一般の方々に理解してもらっていない面も多いと思いますので、ここで経過をふり返って、目新しい名前のセンターを知ってもらおうと思います。

〔経過〕

昭和41年白山のすばらしい自然をいかに我々が取り扱うかについて、まずその自然の実情を知ろうと、石川県は総合的な学術調査を企画しました。そうして各方面の学識経験者からなる白山学術調査団が生まれ、調査研究の活動を開始しました。この調査が進むにつれ白山地域のすぐれた自然がますます浮き彫りにされ、その保護が叫ばれるようになりました。

自然保護の話題が社会を賑わし、具体的な保護施策が要求されるようになってきて、昭和43年頃から石川県と学術調査団は、白山地域の自然保護のための行政と研究と普及のための中枢を作ろうという構想をねっていました。そして昭和46年に当時国立公園を担当していた厚生省は、石川郡吉野谷村中宮温泉に当センターを建設することを決定しました。2ヶ年間の建設を終えて昨春、石川県の一組織としての白山自然保護センターがスタートすることになったのです。

〔組織と活動〕

センターは石川県経済部に属し、所長以下3つの課を置いて次のような活動をしています。

庶務課……事務全般

自然保護課……自然保護の事業を計画し、公園施設等の整備・管理を行ない、合せて法令に基づく許認可等を担当しています。

研究普及課……自然および人の生活の研究を行ない、広く普及につとめています。

これらの仕事に冬期間13名、夏期間20名の所員がたずさわっています。こうして総合的に白山の自然を保護し、その恩恵を地元、そして広く社会に還元しようとしているのです。

〔皆さんへのサービス〕

中宮温泉にあるセンターには自然観察園と展示室を設けています。以前からあった市ノ瀬登山センターと室堂センターと共に登山や自然探勝の折にその自然を理解してもらえるよう、展示や自然教室などの行事を企画しています。団体等は御希望に応じ解説をいたします。

またこの雑誌「はくさん」も我々が白山のよさを知り、感じとつってもらうために発行しているものです。

登山シーズンには主な登山基地やコースを中心にレインジャーを配置し、利用者を指導し、美化清掃など、より自然を保って気持ちよく登山してもらえるよう努力しています。

◇図書・資料紹介◇

白山の自然に関する出版物

古くから信仰の山として盛え、近年は登山も多くなり、自然がすぐれていることで注目されている白山では、研究も進んでいて、多

くの出版物が見られます。白山に関する出版物の中から、総合的にとりあつかったものをとり出してみました。過去のこの欄で紹介済みのももありますが、代表的なものを表にしてみます。

書名	著者・発行年(体裁)	内容
白山	加藤賢三, 明治44年 (B6版, 210頁)	*
石川県天然記念物調査報告	石川県, 大正11年~昭和12年 (B5版, 13巻)	石川県全域のすぐれた自然の調査をまとめたもの。第3集が白山, 第5集が別山の特集になっていて写真もよい。
白山文庫	田村剛 他, 昭和25~31年 (B5版, 10巻)	田村剛「自然公園としての白山の特徴」, 小林貞一「白山をめぐる地域の地質」, 宮一郎「白山の気象」, 三浦伊八郎「白山の原始林景観」, ……とつづく
白山国定公園の生態学的研究	日本自然保護協会, 昭和36年 (B5版, 140頁)	白山の植物に関する報告, 昆虫の目録など研究報告が4編のっている。本文は英文で日本語のまとめがある。
白山	北国新聞社, 昭和37年 (B5版, 365頁)	*
白山資源調査報告	石川県, 昭和42~48年 (B5版, 5回)	白山学術調査団と白山調査研究委員会の調査報告書で自然と人文のほとんどすべてにわたっている。
白山の自然	石川県, 昭和45年 (B5版, 395頁)	気象, 地質, 植物, 動物にわたる白山学術調査団が行なった5年間の研究のまとめ。自然保護への提言も行なっている。
白山の四季	伊藤仁夫, 昭和45年 (A4版, 131頁)	* 写真集
野外観察の手びき	石川県学校教育研究協会, 昭和46年 (B5版, 122頁)	学校での指導のためのものであるが, 白山を中心に生物, 地学, 産業をまとめたもので野外観察の参考書としてすばらしい。
のと, かが四季の野生	北国新聞社, 昭和48年 (B5版, 447頁)	石川県の野生動物を紹介したもので, 地方の自然誌のまとめとしてはすぐれている。白山地域に素材を求めたものが多い。

* はすでに紹介したもの

表紙解説

「歩く」ただそれだけのことである。踏まれた植物は又起きあがる。

しかし起きあがるヒマもなく次から次へと踏まれた時、生長のおそい高山の草原は、次第に枯れ、砂ボコリのたつ裸の大地に変わる。

裸の大地に雨が降る。止めるものもなく勢を得た水は、踏みくだかれた草花や土砂・小石、更には自然の摂理によって播き散らされた草花の種子をも洗い流し、更に下流の草原をその土砂でうめ尽す。

一度刻まれたこのホコロビはとどめるものがなければ更に深く、更に広く、美しい高山の絨織の中へ食い込んでゆき、いつしか、可憐な「お花畑」を、醜い「荒地」に変えてしまう。

「歩く」ただそれだけのことなのだけど……………。

〈四手井英一〉

白山の花期

花名	花期	白山/白山自然保護センター・山田園地											
		5月上	5月中	5月下	6月上	6月中	6月下	7月上	7月中	7月下	8月上	8月中	8月下
キヌガサソウ													
サンカヨウ													
ミヤマキンボウゲ													
チングルマ													
ヨツバシオガマ													
ハクサンシャクナゲ													
ハクサンゴザクラ													
ハクサンフウロ													
クロユリ													
ハクサンチドリ													
シナノキンバイ													
ミヤマキンバイ													
コバイケイソウ													
ハクサンイチゲ													
アオノツガザクラ													
クルマユリ													
タカネナデシコ													
ミヤマダイコンソウ													
ハクサントリカブト													
ミヤマアキノキリンソウ													

編集後記

今年は大変な大雪になりました。ここ冬期事務所も2mほどの雪の中です。

年度末に当たり特集を組み、センター職員だけで原稿をそろえてみました。これだけのスペースでは深い内容に立入ることはできませんが、各分野の白山の最も代表的なものを紹介して白山の自然の特長をつかんでいただこうと思います。また、巻末の欄を広げて白山自然保護センターと関連出版物を紹介しました。皆様の御理解を期待しています。

「はくさん」は昭和48年7月に開館記念創刊号を出してから隔月に刊行してきましたが、この5・6合併号をもって第1巻を終わらせていただきます。4月から第2巻を編集してゆきます。これからは皆様と共に作り育てる雑誌にしたいと思います。

はくさん 第1巻 第5・6号

発行日 1974年2月20日
 発行所 石川県白山自然保護センター
 石川県吉野谷村市原
 印刷所 株式会社 橋本 確文堂